

ジェシー・H・シェラ『パブリック・ライブラリーの成立』

(川崎良孝訳, 日本図書館協会, 1988年2月, 389p) を読んで

中林 隆明 (国立国会図書館)

本書は, Jesse H. Shera *Foundations of the public library; the origins of the public library movement in New England, 1629-1855* (Chicago, Univ. of Chicago Press, 1949) の全訳である。

原著はつとに米国公共図書館成立史の古典として有名である。また著者のシェラ(1903-1982)は, Western Reserve University (Case Western Reserve Universityの前身)の図書館学部長として尽力, またCenter for Documentation and Communication Researchを付置し, 図書館学, 図書館教育のみならず, 今日の情報検索のパイオニアとして, また*Wilson Library Bulletin* のコラムニスト(1961-68)としても広く活躍した。その結果, 著作は図書と雑誌論文を合わせて208点(共著を含む), 雑誌の編集論説, レポート類, 文献目録等を含めると457点にも及ぶ(注)。

ところで原書については, 既に訳者によって当会の『ニュース・レター』27号(昭和62年7月)に紹介されており, またその歴史的意義については『図書館界』〔vol.33(2)-vol.35(2), 1981-1983〕誌上に発表した「アメリカ図書館史学の史的考察(1)-(6)」の中で, 同じく訳者により詳細に論じられている。ここでは本書の内容を中心に紹介することとする。

構成は次の7章と結論, および付録からなる。

1. ニューイングランドという背景
 2. 植民地での始まり
 3. ソーシャル・ライブラリー(1): 起源, 形態, 経済的背景
 4. ソーシャル・ライブラリー(2): 文化的関係
 5. 貸本屋
 6. パブリック・ライブラリーの始まり
 7. パブリック・ライブラリーの発展の要因
- 〔8〕結論

本訳書の書名でニューイングランドの地域限定を省略した理由として、「社会状況がニューイングランドに近付けば、どの地にもパブリック・ライブラリーが成立し発展する」という、その「包括性」と「普遍性」に着目した結果である。また「パブリック・ライブラリー」の訳語は、その語が個人文庫の対語、公立図書館、公的な管轄下の公開図書館、会員を対象にサービス提供する図書館、の4種を意味し、正確な区分が困難なこともあって原語のまま使用した由である。

第1章の背景では、パブリック・ライブラリーの前提条件として、人口のほとんどが英国系で、文化社会的にも米国の他の地域に倍して密接に英国と結び付いていたニューイングランドの土地、人口、農業、商業、製造業の5節に分け紹介する。

第2章では植民地時代の萌芽期図書館について説明する。図書館、と言うよりもコレクションと言った方が適切かもしれないが、は当初聖書など宗教書を中心に発生、これに世俗的な図書も加えて発展してきた状況を、10節にわたって論じる。

第3—4章では、植民地時代の特徴であり、公共的性格を持ち、アメリカで独自の発展を遂げたソーシャル・ライブラリーを取り上げ、その起源、形態、経済的バックグラウンド(6節)と文化的側面(10節)から分析する。独立以後1850年までに1,064のソーシャル・ライブラリーが設立された(p.73)。最盛期は1800年前後の25年で、1840年代以後は急速に衰退していく。またその動向はニューイングランドの経済活動に比例している。事例によって全体をみると、限られた蔵書数(相当部分が100冊以下)と会員数、貧弱な財政基盤(p.80)に立って、平均寿命は短命であった(p.76)。文化的側面としては、教会、政治思想、文学、科学、進歩の思想、図書館の蔵書、Thaddeus M. Harrisの『選定図書目録』(1793)、当時の読書関心、衰退について論述する。

第5章では、ソーシャル・ライブラリーと相互補完関係にあったサーキュレイティング・ライブラリーを取り上げる。ここで訳者は規定料金と引き換えに本を貸すという意味で貸本屋の語を用いる。わが国でも江戸中期から明治後年まで続いた名古屋の貸本屋大惣の例があるが、結局四散し、現在旧蔵本いわゆる「大惣本」は部分的に京都大学と国立国会図書館にある。William Rindが米植民地で最初の貸本屋を開業した時期(1762)とほぼ時期を同じうして、大惣が創業した(1767)のも興味深い。ただ前者が短命だったのに対して、後者は百年以上も繁盛したのが異なるが、ところで、貸本屋はパブリック・ライブラリーとの間にほとんど連続性がないが、民衆の読書傾向をいかに掴むかにその生存がかかっている

ため、需要の多い小説類を置いて利用者に対応するという点で影響を与えた、と論じる(p.158-159)。

以上がパブリック・ライブラリー前史とすれば、次ぎの第6章と第7章はいよいよ本論である。先ず第6章では、制度的な永続性と安定性の根源としての自治体の公費支出に基づく公的機関は、ニューハンプシャー州ピーターボロ・タウン・ライブラリー(1833年設立、なお当時の人口約2,000人)で、今日のパブリック・ライブラリーの始まりだという(p.175-182)。これが設立当時米国第4の大都市(人口9万人)で、ニューイングランドの中心、マサチューセッツ州ボストンに誕生したパブリック・ライブラリー(1854年開館)に繋がって初めて、大きな影響力を持つに至った(p.182)。ボストン・パブリック・ライブラリーが公共図書館史で必ず特筆言及される所以である。従って本章では、同図書館の歴史的意義と設置を認めた州法を中心に6節にわたり論述する。

第7章で有名なパブリック・ライブラリーの発展要因として、経済力、学術、歴史研究、資料保存への要求、地元の誇り(local pride)、普通公教育の社会的重要性など7節に分けて説明する。この辺りが、要因を列挙するに留まり真の発展要因の分析が不十分だ、との不満が生まれる理由である。

最後の「結論」の中で、社会機関としてのパブリック・ライブラリーは近代民主主義の上げ潮で生まれ、社会の進展に歩調を合わせて来たこと、また「社会の複雑化、工業の発展と多様化、都市部人口の集蜜化、主として機械の影響による労働生活や経済生活の専門化につれて、図書館の機能も複雑化し」重要性も増大したことを力説し、その属する時代文化の中にのみ地歩を占めると結ぶ。

なお原文付録も若干の例外を除き全訳、就中歴史的なボストン・パブリック・ライブラリー理事会報告(1852年)の邦訳は資料的価値が高い。

また本書は達意の訳文で且つ原文にも忠実、原注にもよく意を注いである。特に訳注(p.〔319〕-356)は人名を中心によく解説してあり、訳者の苦勞のほどが窺われる。ただ「可全性」の語は、perfectibility の訳とすれば若干分かりにくい言葉のように思われる。また、「テイル」(p.233)は歴史家でパリ・コミューンを弾劾したティエールではあるまいか。

注) *Encyclopedia of Library and Information Science*, vol.38, suppl.3
(New York, M. Dekker, 1985) p.348-71.

原稿を募集します

『図書館史研究』第6号の原稿（来年夏刊行）を募集します
テーマは限定せず、常時、原稿を受付けますので、ふるってご応募ください。

応募：原稿の送り先は下記のとおり。

小川 徹（編集委員長）

注意：400字詰め原稿用紙に30枚程度。採否は編集委員会が検討する。

ニュースレターの原稿を求めます。図書館史文献の書評、紹介を中心に、図書館史についての短文を希望します。枚数は400字×12枚程度。原則として原稿が到着した次号のニュースレターに掲載します。

送付先

※ 第6回図書館史を考えるセミナーは、1988年9月8日と9日の両日、法政箱根荘で開催した。参加は12名で、参加者が研究中のことを各々20分で話し、残りの時間はすべて質疑と討論という形式だった。打ち解けたセミナーになった。

※ 運営委員会報告 9月9日（金）の午後、法政箱根荘で開催した。

『図書館史研究』（第5号）は別掲。『図書館史研究』（第6号）の編集方針については、特に刊行費用を安く上げる方法を検討した。

『図書館史研究』第5号（図書館史研究会編集、日外アソシエーツ発行）が刊行されました。内容は、

河井 弘志 図書館旅行記—啓蒙主義時代の図書館学—

二村 健 スペイン統治時代のフィリピンの図書館

伊香左和子 ハンガリー国立セーチャーニ図書館の成立

小黒 浩司 張建国『我国第一个公共图书馆建立时地弁正』訳注

第5回図書館史を考えるセミナー報告

定価は1,300円ですが、図書館史研究会会員は1,000円になります。会員であることを告げて、日外アソシエーツにお申し込み下さい。

前回のニュースレターでお願いしましたように、会員が発表した図書館史についての論文などを報告していただきたく思います。過去1年ほどの間に、図書館史について発表した論文や図書をお知らせ下さい。

送り先

阪田蓉子

----- 切り取り -----

氏名 ()

(1)論文名 (2)書名 (3)単行書の一章などの担当部分名 著者名, 書名	(1)雑誌名 (2)出版社名 (3)出版社名	(1)巻, 号, 年, ページ (2)発行年 (3)発行年, 担当ページ

ご協力ください

締切 12 月末日